

**製品名: HIF-1 $\alpha$  ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab12024**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000,IP 1:20-1:300
分子量	92-130kDa

**抗原情報**

遺伝子名	HIF1A HIF1A; BHLHE78; MOP1; PASD8; Hypoxia-inducible factor 1-alpha; HIF-1-alpha; HIF1-alpha;
別名	ARNT-interacting protein; Basic-helix-loop-helix-PAS protein MOP1; Class E basic helix-loop-helix protein 78; bHLHe78; Member of PAS protein 1; PAS doma
遺伝子 ID	3091.0
SwissProt ID	Q16665
免疫原	抗血清はヒト HIF-1 $\alpha$ 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 328-377

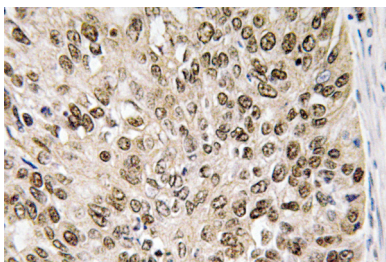
**背景**

低酸素症誘導因子1 $\alpha$ サブユニット(HIF1A) Homo sapiens この遺伝子は、 $\alpha$ サブユニットと $\beta$ サブユニットからなるヘテロ二量体である転写因子低酸素症誘導因子1(HIF-1)の $\alpha$ サブユニットをコードしています。HIF-1は、エネルギー代謝、血管新生、アポトーシスに関与する遺伝子や、タンパク質産物が酸素運搬を増加させたり、低酸素症への代謝適応を促進したりする他の遺伝子など、多くの遺伝子の転写を活性化することにより、低酸素症に対する細胞および全身の恒常性応答のマスター制御因子として機能します。したがって、HIF-1は、胎児の血管新生、腫瘍の血管新生、および虚血性疾患の病態生理において重要な役割を果たしています。この遺伝子については、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが同定されています。[RefSeq 提供、2011年7月]、ドメイン:2つの独立したC末端転写活性化ドメイン、NTADとCTADを含み、これらは相乗的に機能します。これらの転写活性は、介在する阻害ドメイン(ID)によって抑制されます。機能:低酸素への適応応答のマスター転写制御因子として機能します。低酸素条件下では、エリスロポエチン、グルコーストランスポーター、解糖酵素、血管内皮増殖因子、およびタンパク質産物が酸素供給を増加させるか、低酸素への代謝適応を促進するその他の遺伝子を含む40以上の遺伝子の転写を活性化します。胎児の血管新生、腫瘍の血管新生、および虚血性疾患の病態生理において重要な役割を果たします。標的遺伝子プロモーターの低酸素応答エレメント(HRE)内のコアDNA配列5'-[AG]CGTG-3'に結合します。活性化にはCREBBPやEP300などの転写共役因子のリクルートメントが必要です。NCOA1またはNCOA2との相互作用により活性が増強されます。酸化還元調節タンパク質APEXとの相互作用はCTADを活性化し、NCOA1およびCREBBPによる活性化を増強するようです。誘導:酸素分圧低下。また、成長因子、サイトカイン、PDGF、EGF、FGF-2、IGF-2、TGF-1 $\beta$ 、HGF、TNF $\alpha$ 、IL-1 $\beta$ 、アンジオテンシン-2、トロンビンなどの循環因子など、様々な受容体介在因子によっても誘導されます。

## 研究分野

血管新生を制御する; mTOR; タンパク質アセチル化

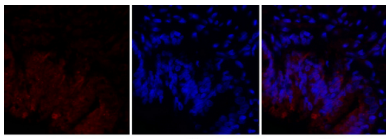
## 画像データ



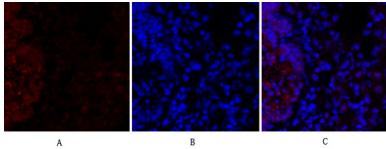
パラフィン包埋ヒト脳組織におけるHIF-1 $\alpha$ 抗体の免疫組織化学分析。



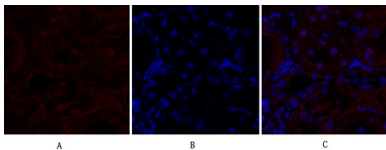
HIF-1 $\alpha$ 抗体を使用したLOVO細胞溶解物のウエスタンブロット分析。



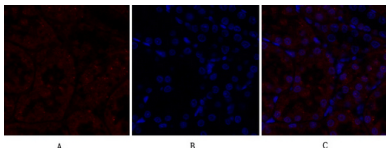
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, HIF-1 $\alpha$  ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4 $^{\circ}$ C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



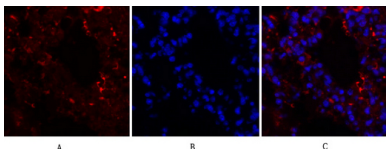
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, HIF-1 $\alpha$  ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4 $^{\circ}$ C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



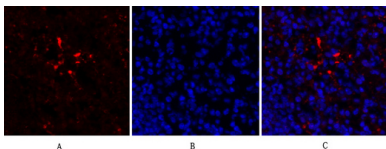
ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, HIF-1 $\alpha$  ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4 $^{\circ}$ C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: 標的。図 B: DAPI。図 C: A+B の融合。



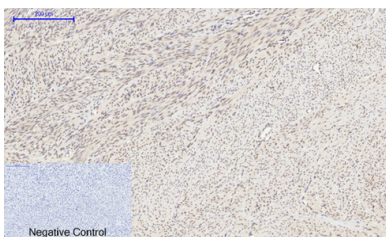
ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, HIF-1 $\alpha$  ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4 $^{\circ}$ C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: 標的。図 B: DAPI。図 C: A+B の融合。



マウス肺組織の免疫蛍光染色。1, HIF-1 $\alpha$  ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4 $^{\circ}$ C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



マウス肺組織の免疫蛍光染色。1, HIF-1 $\alpha$  ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4 $^{\circ}$ C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. HIF-1 $\alpha$  ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4 $^{\circ}$ C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98 $^{\circ}$ C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。